京博連だより
Vol.49
2011.5

京の博物館

目次

巻頭言…… 1
おこしやす
・京都工芸繊維大学 美術工芸資料館 … 2
・千本釈迦堂 大報恩寺 霊宝殿 … 4
トピックス…… 6
京のかるちゃーすぽっと「ひと・もの・わが館自慢」 … 8
京都賞ライブラリー／京都大学研究資源アーカイブ映像ステーション／西川油店
美術館・博物館と私…… 11
ティータイム…… 12

関西から文化力
POWER OF CULTURE

巻頭言　龍谷ミュージアム　－仏教総合博物館－

宮治 昭（みやじ あきら）
（龍谷ミュージアム館長）

新しく京博連に仲間入りさせて頂きました龍谷ミュージアムを代表して，ご挨拶と紹介をさせて頂きます。

京都市内の多くの博物館施設が集まった連絡協議会が情報の交換をし，交流を深め，「京の博物館－京博連だより－」を発行されていることは誠に有難く，心強い限りです。京都は街全体がミュージアムでもありますが，その中に個性溢れる博物館・美術館がたくさん輝いていて，訪れる人を楽しませ，心豊かにさせてくれます。龍谷ミュージアムもこうした博物館の一つとなれば，こんなに嬉しいことはありません。

この四月にオープンしました龍谷ミュージアムは，堀川通をはさんで西本願寺の向かい側にあります。龍谷大学の施設ですが，多くの一般の方々にもご来館頂きたいと願っています。龍谷ミュージアムは「仏教総合博物館」が基本コンセプトで，二階と三階の展示室に，それぞれ「アジアの仏教」と「日本の仏教」の展示をします。今年度の一年間は「釈尊と親鸞」をテーマに，六期に分けて展示替えをします。

仏教はインドで誕生し，アジア世界に広く伝播し，日本で独自の展開を遂げました。仏教はつくづく幅広く，奥深いものと感じます。時空を超えて生き続け，しかも多彩な発展を見せる仏教とその美術の素晴らしさ，面白さ，力強さを身近に感じて頂ける展示ができればと考えています。

私事になりますが，今から40年以上昔の1969年の夏，アフガニスタンのバーミヤーン遺跡を前にした時の感激は今も忘れ難く，その光景が時折蘇ってきます。二体の巨大な大仏と石窟に描かれた美しい壁画に魅了され，1974，76，78，80年には，現在京博連の会長をされている樋口隆康先生が率いた，京都大学中央アジア学術調査隊の一員に加えて頂き，バーミヤーンやガンダーラの仏教遺跡を調査する機会に恵まれました。本当に不思議な縁を感じます。

龍谷ミュージアムは龍谷大学所蔵の大谷探検隊将来の西域の文物，および浄土真宗関係の法宝物を軸にしながらも，幅広く仏教の様々な側面に光を当てて，「見る・聞く・感じる」展示が展開できればと思っています。二階のコーナーには西域トルファンのベゼクリク石窟の大回廊を高さ3.5m，長さ15mの原寸大で復元展示し，三階には高精細の映像が楽しめる小シアターを設けています。2012年度からは常設展の他に，春と秋の二回の特別展や，小規模の企画展も開催したいと夢はふくらみます。京博連の一員として，微力ながら多くの博物館・美術館と交流を持ち，ミュージアム活動を行っていきたいと願っています。どうぞよろしくお願いします。

おこしやす

京都工芸繊維大学　美術工芸資料館

館長　並木　誠士

資料収集のはじまり

京都工芸繊維大学美術工芸資料館の収蔵資料のはじまりは，1902年の京都高等工芸学校の開校時にまでさかのぼります。

近代を迎え，京都の伝統産業は，機械化による大量生産や化学染料を用いた安価な製品の導入，海外へのマーケットの展開など，それまでに経験したことのない新しい事態に直面しました。そこで要請されたのが，新しい時代に対応できる技術や知識を教えることのできる教育機関であり，それが京都高等工芸学校でした。京都高等工芸学校は，機織科，色染科，図案科の三学科からなり，そのうちの図案科で教材として購入した資料類が，美術工芸資料館のコレクションのひとつの核になっています。図案科は，新たな時代にふさわしい図案（デザイン）の考究を目的としており，当時にあっては，伝統的なものよりもむしろ，海外で通用するようなヨーロッパの最新の動向を反映させた図案の摂取に重点がおかれました。

20世紀初頭のヨーロッパはアールヌーボーと呼ばれる芸術運動の全盛期でした。アールヌーボーとは，従来の絵画や彫刻といった芸術ジャンルよりも，むしろ，工芸や装飾文様を重視する活動で，現在のデザインと呼ばれるものが注目されるようになったのも，この時期です。京都高等工芸学校の図案科は，ヨーロッパのこのような動向を背景に設置されたのです。

ロートレックによるポスター「歓楽の女王」

この図案科の初代教授が浅井忠と武田五一です。東京美術学校西洋画科の教授であった浅井忠は，文部省から1900年のパリ万国博覧会（別名アールヌーボー博と呼ばれました）の視察を命じられ，パリに滞在していました。ここで浅井が出会ったのが，京都高等工芸学校開設の準備のためヨーロッパを視察していた，のちの初代校長中澤岩太でした。アールヌーボー全盛のパリにあって図案の重要性を認識した浅井は，中澤の依頼を受けて，図案科教授に就任することを約束します。また，東京帝国大学建築学科を卒業した武田五一は図案科教員就任が決まっており，その準備のためにやはりパリに赴いていました。

浅井と武田は，パリにあって，当時のヨーロッパにおける最先端の品々を図案科の教材として購入しました。それは，さまざまな技法を用いた実験的な陶磁器類であり，また当時，パリの町を彩っていた多彩なポスターでした。

「歓楽の女王」は1892年に，後期印象派の画家として有名であり，ポスター・デザイナーとしても活躍したアンリ・ドゥ・トゥールーズ=ロートレックが手がけた作品です。ヴィクトール・ジョズの著作『歓楽の女王―娼婦の世界の風習』の出版を告知するポスターで，ロートレックのポスター・デザインの代表作の一つです。

また，「果実文花瓶」はフランスの製陶所，ブーランジェ社ジョワジー=ル=ロワ窯による作品のひとつで，当時パリで流行した植物文様による連続パターンがあらわされています。同社の作品は，1900年のパリ万博で高い評価を得て，日本でも「ブーランゼー会社」として紹介され，注目されていました。

ブーランジェ社「果実文花瓶」

美術工芸資料館について

美術工芸資料館　外観

美術工芸資料館は，1902年の開学以来蓄積されてきた教材類の保管および展示公開を目的として，1980年に完成，翌81年に開館しました。

収蔵資料のなかでも中心的な位置を占めるのは，開学以来継続的に収集を続けているポスター類と資料館開館後に積極的に収集をおこなっている建築図面類です。

ポスターに関しては，ロートレックやシェレといった19世紀末のフランスのポスターからはじまり，ウィーンゼセッション，カッサンドルなど，ポスター史上の名品を多く収蔵しています。また，日本のポスターも，赤玉ポートワインや東京オリンピックのポスターといった歴史的名作から，JR東海，いいちこなど現代のすぐれたポスターまで，幅広い作品が収蔵品となっています。

建築図面に関しては，モダニズム建築を代表する村野藤吾，本野精吾の図面類の寄贈を受けて，コレクションが形成されました。現存する建築の図面だけではなく，すでに失われてしまった建物や建築家の構想段階で終わった建物の図面も含まれており，近代建築研究にとって重要な資料となっています。また，これらの図面類をもとにして，国内では珍しい建築アーカイブの構築を目指して活動を続けています。

国内外の名作を多数収蔵

ポスターと建築図面という二本の柱に加えて，世界各地の染織資料，ティファニーに代表されるアール・デコ期のガラス工芸なども重要な収蔵品です。また，2010年には，詩人谷川俊太郎氏が永年にわたり収集した190点の真空管ラジオの寄贈を受けて，新たなコレクションの核ができあがりました。このように，美術工芸資料館の収蔵品は，近代から現代までの美術工芸や建築の展開を知ることのできる貴重なコレクションです。

これらの収蔵品は，一年に５～６回の展覧会というかたちで，ひろく一般に公開しています。さらに，近隣の小学校の児童を対象にした「美術教室」を年一回開催しており，次の世代に美術館・博物館に親しんでもらえるようつとめています。また，一階の展示室には，浅井忠が，没年である1907年に開催された第１回文部省美術展覧会に出品した「武士山狩図」を常設で展示しています。この「武士山狩図」は，川島織物株式会社が東宮御所の綴織を作成するための原画であり，全体下絵，部分下絵も同時に保管されており，制作プロセスがわかるという点でも貴重です。

近隣小学校の児童を対象にした美術教室

京都工芸繊維大学　美術工芸資料館

所在地	〒606-8585 京都市左京区松ヶ崎橋上町 TEL(075)724-7924 FAX(075)724-7920
交通	地下鉄烏丸線「松ヶ崎」駅下車 徒歩約８分
開館時間	10：00～17：00（入館は16：30まで）
休館日	日曜日，祝日／展示換え期間，入学試験実施日，年末年始（12月28日－1月4日）
料金	一般200円，大学生150円，高校生以下無料
ホームページ	http://www.cis.kit.ac.jp/~siryokan/main.html

おこしやす

千本釈迦堂　大報恩寺　霊宝殿

副住職　菊入　諒如

大報恩寺について

千本釈迦堂　大報恩寺は今から784年前，鎌倉初期の安貞元（1227）年，義空上人によって開創された寺であります。本堂は創建時そのままのものであり，応仁・文明の乱にも両陣営から手厚き保護をうけ，奇跡的にも災火をまぬがれた京洛最古の建造物として国宝に指定されています。

義空上人は，藤原秀衡の孫にあたり，19歳で叡山澄憲僧都に師事，拾数年ののち，この千本の地を得て，苦難の末本堂をはじめ諸伽藍を建立しました。この造営について，寺の縁起に次のような物語が記されています。

『･･･大御堂造営の途上，大光柱が見つからず，工事は停頓していた。同じ時，摂津の富有の材木商「成金」の一夜の夢に金色白眉の老僧が現れ，「洛中に一大精舎が建立されんとしている。汝のもつ巨材中に大光柱にすべきものあり，是非とも提供願いたい。」との申出に成金が応じたところ，老僧は直ちに巨木の頭に大報恩寺の刻印を打って帰って行った。成金夢さめ，余りの不思議に材木をしらべたところ，正にその刻印を発見，翌日寺を訪れたところ，夢の老僧は仮堂安置の迦葉尊者であり，成金大いに感激し早速材木を寄進した。･･･』とあります。この縁起によっても，大報恩寺の伽藍造営が大工事であったことがうかがわれます。当山では開創以来の法灯をまもり，多くの伝統行事と文化財を今日に伝えています。

霊宝殿について

大報恩寺の文化財保存事業の一環として，足利義満ゆかりの美術工芸品「鼉太鼓縁」（重要文化財）一対の復元修理の完成，及び昭和56年に北野経王堂一切経が重要文化財に指定されたのをうけ，多くの文化財収蔵施設として昭和60年に完成し，一般公開を始めました。建物は鉄筋コンクリート・2階建ての入母屋造，桟瓦葺で，展示室内部の壁は桧で造られています。また，同時に第一収蔵庫（昭和41年完成）の改修工事も行われました。鎌倉時代の仏像彫刻を中心に多数の展示がされておりますが，その中から代表的な逸品をご紹介申し上げます。

【十大弟子像・十軀】重要文化財（鎌倉時代）

釈迦の弟子から十名を選んで十大弟子と呼び，彫刻や絵画にあらわされる場合が少なくありません。大報恩寺の彫像も本尊に侍立するためつくられたもので，十体を完備しています。中尊釈迦像厨子のおそらく両脇に置かれた三尺の十大弟子像で，年齢は老壮若を交じえ，いずれも円頂の僧形としています。着衣は下半身に裙，左肩から大衣を偏袒右肩にまとい，さらに，下衣（僧祇支）を着すもの，腹前に裙の上端を露すもの，右肩に覆肩衣をまとうもの，大衣に環を付けるものなどの変化をつけ，台座は八角宣字座。

木造十大弟子立像（十軀完存）

目犍連尊者像

目犍連と優婆離の両尊者像に快慶の署名があり，作者を明らかにすることができます。快慶は運慶とならんで高名な鎌倉初期の大仏師で，この像にも綺麗好みの作者の特色がよく出ています。本尊の釈迦如来像が弟子行快の作なので，ここに快慶師弟が心をこめて合作した一群の像をみるわけであります。阿難尊者像の胎内にいろいろな文書類が納入していました。列記をしますと，願文・

法華経等和讃・心経真言等・聖徳太子奉頒文・般若心経・諸真言集・火界咒・阿弥陀根本真言・梵字紙片。大威徳道場観などであります。

【六観音像・六軀】重要文化財（鎌倉時代）

六観音とは，真言宗では聖・千手・馬頭・十一面・准胝・如意輪，の六つをとりあげ，天台宗では准胝のかわりに不空羂索を加えます。それぞれ地獄・餓鬼・畜生・修羅・人・天の六道を救う観音とされます。

如意輪観音菩薩像

大報恩寺の六観音像は真言系のもので，いずれも宝髻を結い，天冠台をつけ，白毫をあらわし，条帛・裙・腰布を着し，天衣を掛けています。装身具は現状では各像に腕釧があり十一面像と如意輪像に臂釧があり，さらに釘孔から推定できるものに各像の胸飾と瓔珞があります。本体はいずれも赤みがかった針葉樹（カヤ科）を用い，頭・体根幹部を一材から彫出しています。彫刻の刀法が心憎いまでに冴え，衣のひだが複雑な変化をみせています。よほど腕のある仏師の作と思われていましたが，准胝観音像から見出された墨書銘によって，貞応３（1224）年，定慶の作であることが判明しました。

定慶は運慶派の仏師でありますが，中国宋の影響を強くうけたことで知られています。なお，六観音像の胎内に納めていた経巻が８巻も発見されましたが，それによれば藤原以久の女が願主となって造像したことが分かります。また各像の総高は約2.7メートルであります。

木造六観音菩薩像（六軀完存）

【誕生釈迦仏立像】重要文化財（鎌倉時代）

釈迦信仰の中心地のひとつだった大報恩寺には，大型（一尺七寸六分＝53センチ）の誕生釈迦仏像がのこされています。６世紀，わが国に仏教が初伝されたときから誕生仏が灌仏会とともにもたらされたともされ，飛鳥時代から遺品がありま

銅造誕生釈迦仏立像

す。しかし家単位であるいは個人的に所持礼拝されたらしく，ほとんどが10センチていどの小型の像でありました。そのような中で，東大寺誕生仏でさえ像高46.8センチ（一尺四寸四分）なのに対し，それをひとまわり越える本像は特殊ともいえます。誕生釈迦仏の頭髪は螺髪形がふつうで，小型のものでは素髪もありますが，地髪と肉髪の各正面に中心をもつ渦巻き状の本像の髪形は非常に特徴的で，清涼寺本尊である優填王思慕釈迦像のその部分を写したことが明らかであります。大報恩寺本尊の光背化仏の髪型がまたそうであったように，現世に生きた応身の釈迦の姿をこのように表現したものと考えられます。大報恩寺創建に当たって，清涼寺とは別にもうひとつの釈迦信仰の聖地を創出しようとした意向がうかがえます。

【鼉太鼓縁・二基】重要文化財（室町時代）

龍と鳳凰を大きくあしらう太鼓の縁で，昭和54年から修復が施されて，面目を一新しました。頂に日象・月象を掲げ，太鼓の縁は雲文を主体とし周縁部は火焔，その上方に三面宝珠，左右に龍（一対）あるいは鳳凰（一対）を配する。針葉樹材，正中で左右二材を矧ぎ，下方の柄までを共木でつくり，細部に小材を寄せる。宝珠および龍・鳳凰は各別材製。布張り，サビ下地，雲文は彩色，日象・月象，火焔，宝珠は漆箔，龍・鳳凰は漆箔に一部彩色。経王堂伝来で，応永８（1401）年，創建期のものとされています。

鼉太鼓縁　二基

千本釈迦堂　大報恩寺　霊宝殿

所 在 地　〒602-8319
京都市上京区五辻通六軒町西入溝前町1034
TEL（075）461-5973
FAX（075）461-5974

交　　通　市バス「上七軒」下車　北へ徒歩３分
※無料駐車場あり

開館時間　9：00～17：00

休 館 日　無休

料　　金　大人500円，高・大学生400円，中学生・小人300円
（霊宝殿・国宝本堂の共通拝観。20名以上の団体は，各50円割引）

トピックス

第16回 京都ミュージアムロード

市民の皆様や観光客の皆様に，京の博物館・美術館を身近に感じていただく機会として毎年開催している京都ミュージアムロード。過去最高となる72館の御協力により，今年も盛大に開催することができました。

次回も，たくさんの方々に博物館・美術館へ足を運んでいただけるよう，より一層内容を充実していきたいと考えていますので，加盟館の皆様におかれましては，引き続き御協力のほど，よろしくお願いいたします。

・開催期間　平成23年１月29日(土)～３月21日(月・祝)
・参加館数　72館（前回は63館）
・参加者数　約50万人（会場の総入場者数）
・スタンプラリープレゼント企画応募数　2,147通（前回は1,901通）

いけばな体験（いけばな資料館）

◎参加者アンケートから（抜粋）

・京都には沢山の美術館・博物館があり，以前から巡ってみたいと思っていたのですが，今回のスタンプラリーの企画のおかげで，楽しんで美術館巡りができました。
・本当にためになり，少しですが，京の文化にふれられてよかったです。施設によっては親切に説明して下さり，大変助かりました。
・京都を旅することになりインターネットでこちらのイベントを知りました。普段だったら立ち寄らないところへも，行くきっかけとなり，いろいろな素敵な出会いにもつながりました。また参加したいです。
・昨年より参加しておりますが，毎年同じではないのですね!? 拡大地図がとても便利で迷子にならずに楽しめました。
・先日の関東・東北大震災以来，とても暗い気持ちで過ごしていました。気分転換に美術館巡りをしました。美術品を見て心が明るくなり前向きな気持ちが戻ってきたような気がします。これからもこのような企画を続けて下さい。

◎参加館アンケートから

・集客力に繋がることを感じました。今後は，企画展にかぶせる形で効果のアップをはかっていきたいと思います。
・今年初参加させて頂きました。多くの方々が（特に近隣の方々で入りたいけど，入りにくいと思っていた方々が）来館して下さいました。
・今年は，京都や関西圏以外の方もたくさん来て頂いたように思います。旅行の際にたまたまどこかの施設でイベントを知って・・・という方々でした。
・より多くの方に京都の文化力を知っていただける様，この催しの素晴らしさをわかり易く広く伝えていただきたい。
・ポスターとスタンプラリーの台紙をわかりやすい形で作成していただいているので，特にお客様からお問い合わせやご質問もなく，またミュージアムロード期間中のトラブルもなくスムーズだったと思います。

◯ 平成22年度「博物館連続公開講座」好評のうちに終了

加盟館の協力を得て開催している「京都市博物館連続公開講座」。市民からの人気も高く，昨年度で18年目を迎えました。今回は，平成23年２月および３月に開催した，第４回，第５回講座の様子を御紹介します。

向き合ってお茶体験（第４回）

○第４回　茶道資料館

まず館近くの裏千家学園で，学芸員の橘倫子氏から「裏千家11代 玄々斎（げんげんさい）の茶道具」と題した，大変興味深いお話をしていただきました。御講演の後は，茶道資料館へ徒歩移動。春季展の見学のほか，館の御好意により丁寧なお茶体験もさせていただき，参加された方々にとって大変充実した講座となりました。

○第５回　花園大学歴史博物館

明珍氏の講演に聞き入る参加者（第５回）

花園大学文学部准教授の明珍健二氏から「大学博物館の使命と展示」と題した御講演をいただきました。全国の大学に博物館ができたいきさつ，同博物館のこれまでの展示など，詳しくお話いただきました。

続いて研究員の山口洋子氏から企画展について御説明いただいた後，展示見学へ。館内では，明珍氏や研究員の皆さんに，参加者が熱心に質問されていました。

他都市博物館視察研修会を実施

他都市の博物館を訪問して，事業及び運営等についての説明を受け見学することで，館運営等の参考とするため，平成23年３月10日（木），奈良県の大和文華館（奈良市），斑鳩文化財センター・国史跡藤ノ木古墳・法隆寺大宝蔵院（斑鳩町）を京博連会員48名で訪問しました。

午前中は，開館50周年を迎えるにあたり，平成22年10月にリニューアルオープンした大和文華館を訪問しました。学芸員の瀧朝子様からリニューアル工事の概要など運営や展示に関する説明をお聴きした後，中国・朝鮮美術をテーマにした多彩な展示を見学しました。

午後からは，平成22年３月に開館した斑鳩文化財センターへ。

はじめに，斑鳩町教育委員会の栗本裕美教育長から御挨拶をいただいた後，同センター長を務めておられる樋口隆康京博連会長から，施設や展示の魅力を紹介していただきました。その後，同センターの平田政彦様から，開館までの経緯など運営や展示に関する説明をお聴きし，同センター内の藤ノ木古墳出土品のレプリカ展示を見学。その後の国史跡藤ノ木古墳，法隆寺大宝蔵院を順に案内していただきました。

両館とも大変温かく迎えていただき，博物館運営についての研修を深めるとともに，参加者の皆様方の交流の場としても和やかな雰囲気の中，充実した一日となりました。

斑鳩文化財センター長　樋口隆康氏の御挨拶

藤ノ木古墳の見学

平成22年度「京都市博物館ふれあいボランティア養成講座」が終了

さる２月17日，左京区鹿ヶ谷の泉屋博古館で，同館名誉館長である樋口隆康氏御出席のもと，平成22年度「京都市博物館ふれあいボランティア養成講座」修了式が行われました。10月からの５回にわたる講座をへて，43名の方が修了証を手にされました。

今回は，第４講（１月24日）および第５講（２月17日）について御報告します。

第４講では，琵琶湖博物館名誉学芸員の布谷知夫先生から，「学びの場としての博物館」と題した御講義をいただいたあと，受講生の皆さんが，これまでグループに分かれて討議を重ねてこられた結果を発表していただきました（テーマ「博物館とボランティア，その相互関係のよりよいあり方」）。また，それに対し布谷先生から，現場での事例などをまじえながら丁寧な御講評をいただきました。

第４講　布谷知夫先生の講義

第５講は，泉屋博古館の全面的な御協力をいただいて，同館で実施しました。修了式のほか，ボランティアが活動中の館の御担当者から，館概要や活動内容について説明がありました。また，同館ボランティアの方に，実際に展示品（古代中国の青銅器等）の解説を行っていただきました。

最後は，本講座修了生で作る「虹の会」役員との意見交換会が行われ，テーブルごとに，活発に意見が交わされました。

今回，講座を修了された43名の方は，４月から「虹の会」会員として京博連加盟館で，ボランティア活動を開始されます。

本講座は，平成24年まで実施予定です。今回，御協力をいただきました館や関係者の皆様に御礼を申し上げますとともに，引き続き，御協力を賜りますよう，よろしくお願いいたします。

京博連　樋口隆康会長（泉屋博古館名誉館長）から修了証を授与

京都賞ライブラリー

稲盛財団 広報渉外部長　原　健一

わが館を紹介

稲盛財団記念館　外観
（鴨川に面し，全長120m，前面ガラス張りが特徴）

京都賞ライブラリーでの展示の様子

「21世紀の新たな知の拠点を確立したい」という京都大学からの申し出を受けて，稲盛財団は2008年に「稲盛財団記念館」を大学に寄贈させて頂きました。その１階に，歴代の京都賞受賞者を紹介する「京都賞ライブラリー」があります。

京都賞は科学や文明の発展，人類の精神的深化・高揚の面で著しい貢献をした人を顕彰する国際賞です。ライブラリーでは，京都大学を訪れる研究者のみならず，一般の方々や次の世代を担う子どもたちに，賞の理念や受賞者の素顔を分かりやすく紹介するため，写真パネルをはじめ，受賞者からの手紙やゆかりの品々，研究資料などを幅広く展示しています。また展示品は定期的に入れ替えも行っています。その他情報検索コーナーや映像コーナーなどがあり，京都賞を紹介するビデオや受賞者から若い人たちに向けた「未来へのメッセージ」などを大型ディスプレイでご覧いただけます。

京都市内や鴨川の散策途中にでも，ぜひお気軽にお立ち寄りください。

わが館もの自慢

展示品の中からその一部をご紹介いたします。写真１は，「パソコンの父」と呼ばれる第20回（2004）京都賞受賞者アラン・ケイ博士が，1968年頃に作ったノートパソコンの模型です。「誰でも自由に持ち運べ，ネットワークでつながる」という現代のユビキタス構想は，実に40年以上も前に具体的な形として示されていました。

写真１

写真２は，遺伝子の働きを研究する道を確立した分子遺伝学者で，第12回（1996）京都賞受賞者マリオ・カペッキ博士のチロル帽です。博士は，幼少時代，第二次大戦中のイタリアで，お母様と生き別れてしまい，暫く路上生活を強いられるという辛い経験をされています。戦後そのお母様と再会を果たされた時にお母様から贈られた物で，博士にとって大変思い出深いものですが，それを特別に寄贈していただきました。博士の波乱に満ちた人生を象徴するものです。

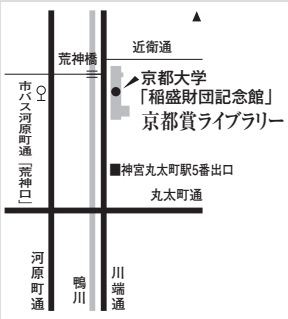
写真２

わが館ひと自慢

「京都賞ライブラリー」では展示の他に，高校生や大学生といった若い人たちを対象に，京都賞受賞者と直接交流できる青少年向けのプログラムを開催してきました。今後はたくさんの市民の皆様にも足を運んでいただけるよう，さらに魅力あるイベントを企画してまいりたいと考えています。

京都賞受賞者と交流する青少年プログラムの様子

◉**所在地**
〒606-8501
京都市左京区吉田下阿達町
（吉田キャンパス川端近衛南東角）
京都大学稲盛財団記念館1階



◉**ＴＥＬ**　(075)753-7741
◉**交通**
京阪電車「神宮丸太町」駅下車 徒歩5分
市バス「荒神口」下車 徒歩5分，京都バス「荒神橋」下車すぐ
◉**開館時間**　10：00～16：00
◉**休館日**　日曜日，月曜日，祝日／年末年始(12月28日－1月4日)
◉**料金**　無料
◉**ホームページ**
http://www.inamori-f.or.jp/kp_library/kyoto.html

ひと・もの・わが館自慢

京都大学研究資源アーカイブ映像ステーション

京都大学研究資源アーカイブ・デジタルコレクションアーキビスト
京都大学総合博物館　講師　五島　敏芳

わが館を紹介

京都大学研究資源アーカイブ映像ステーションは，京都大学の研究資源をデジタル情報や映像等コンテンツで閲覧・鑑賞できる場所です。

ここで言う「研究資源」とは，京都大学の伝統であるフィールド研究や海外学術調査で収集された写真・映像，フィールドノート，キャンパスで永年にわたり紡ぎ出されてきた講義や論文のノート，原稿，録音，実験や観測のデータ等々の一次資料です。図書とも学術標本とも違って扱いづらく，これまで体系的に保存されてきませんでしたが，教育研究活動の内容・足跡を明らかにする証拠記録といえます。

これら教育研究活動の一次資料を保存するとともに，今後の教育研究に活用するための活動が，京都大学研究資源アーカイブです。

映像ステーションは，それら研究資源を広く社会に公開するために設置されました。施設内には，映写コーナーと，４つの個人閲覧用ブースがあり，それぞれで本学の研究資源を体験できます。

施設内全体・映写コーナー

映像ステーション端末画面

わが館ひと自慢

特定の「ひと」や組織・団体というわけではなく，京都大学のさまざまな教育研究活動を取り上げています。閲覧・鑑賞できる映像等コンテンツには，今西錦司，伊谷純一郎，石井米雄，湯川秀樹，西田幾太郎といった研究者や関係する研究組織等が登場します。

わが館もの自慢

映像ステーションでは，研究資源をもとに制作された教育研究活動を紹介する映像番組・展示コンテンツ，研究資源をデジタル化した画像・映像・音，京都大学に関わる記録映画などが，展示品に相当します。

個人閲覧用ブースでは，映像番組や（歴史的資料となった）部局等紹介映像を，まずご覧いただきたいとおもいます。研究資源そのものに焦点をしぼって紹介する展示コンテンツも，教育研究活動を知る手引きとなるはずです。つぎに，関心を持った教育研究のテーマがあれば，それを京都大学デジタルアーカイブシステムで探してみてください。教育研究活動の一端を示す写真・スケッチ・録音等々がデジタルで現れます。

映写コーナーでは，「京都大学のフィールド研究と学術探検」と題して，1950年代に京都大学が派遣した学術探検隊や登山隊の記録映画である『カラコルム』（日本映画新社製作，1956年），『花嫁の峰　チョゴリザ』（日本映画新社製作，1959年）の２作品を上映しています。（特別プログラムで別の学術映像等を上映することもあります。）

展示コンテンツ画面

京都大学デジタルアーカイブシステムKUDAS画面

◉所在地
〒606-8501　京都市左京区吉田下阿達町
京都大学稲盛財団記念館1階

◉ＴＥＬ　(075)753-3272
京都大学総合博物館事務室

◉交通
京阪電車「神宮丸太町」駅下車 徒歩5分
市バス「荒神口」下車 徒歩5分，京都バス「荒神橋」下車すぐ

◉開館時間　10：00～16：00

◉休館日
日曜日・月曜日・祝日／京都大学創立記念日（6月18日），年末年始（12月28日－1月4日）

◉料金　無料

◉ホームページ
http://www.rra.museum.kyoto-u.ac.jp/avs/

西川油店（にしかわあぶらてん）

代表取締役　西川　千大

わが館を紹介

西川油店　外観

西本願寺に近く，油小路通七条を一筋下った油小路町に，油屋の西川油店があります。天保６年の創業で，菜種油の製造を始め，卸・小売まで幅広く営んでまいりました。

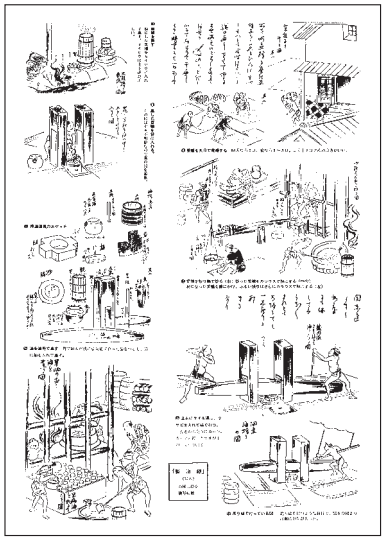
油の製造は大変な重労働で，職人は「一日に一升の飯を喰らう」といわれた程です。夜中から菜種の実を粉にし，蒸籠（せいろう）で蒸し，油を抽出する絞木（しめぎ）に楔（くさび）を打ち込んで絞り，油と油粕が出来（でき）ます。製造道具は全て樫の木で，楔を打ち込む音が高く，ご近所に響き渡る程の大きな音でした。

菜種油は電機やガスが普及するまでは，灯（あか）り用や天ぷら用として，貴重で高価なものでした。室町時代から戦国時代にかけて，菜種の作付けが増加し，菜種油が主流を占めるようになりました。西川油店は，大正８年から卸と小売に専念し，多種の油を商う油専門店として，今日まで時代と共に歩み続けてまいりました。

わが館ひと自慢

私は６代目の油屋として，ご来店のお客様に油をお求め頂く中で，油の歴史・種類・性質や，展内に展示をしている油の道具，油を製造する順序が一目で解るチラシをお見せして，説明をさせて頂いています。油屋は現在では僅か数軒を残すのみとなり，油に関する知識が次第に薄れてゆくのが現状です。

油の原料は「木の実」，「植物」，「魚類」等，油の種類は食用・工業用で数百程あり，油の性質も大別して「不乾性油」，「半乾性油」，「乾性油」に分類出来ます。お客様には油に関する知識を深めて頂けるよう，努めています。


油製造の順序

わが館もの自慢

西川油店は京町家の佇まいの中で，油の販売と現在では貴重になった，江戸時代創業の店に残る数々の油の道具を展示しています。油の道具の多くは消滅し，まとまって油の道具を所蔵している店は稀少です。

油を製造する絞木（しめぎ）（縮尺1/10）・行商用の秤・竪桶（たておけ）・漏斗（じょうご）・大福帳・小売道具等，油が染み込んだかつての道具類に，古い時代を感じ取って頂ければ幸甚です。中でも秘蔵の品は，一幅の掛軸で，菜種畑から菜種を採り入れる様子から油が抽出されるまでの過程が全て描かれています。ご来店をお待ち申し上げます。

（上段）秤など，行商用油道具
（下段）絞った油を入れる竪桶

（上段）値段表（油の初相場）
（下段）升などの道具類

◉所在地
〒600-8231
京都市下京区油小路通七条下る油小路町294

◉ＴＥＬ　(075)343-0733

◉ＦＡＸ　(075)343-0733

◉交通　JR「京都」駅下車 西へ徒歩５分
市バス「七条堀川」下車 徒歩３分

◉開館時間　10：00～17：00

◉休館日　無休

◉料金　無料

京狩野

京都市博物館ふれあいボランティア「虹の会」
津田　秀行

３月末の暖かい一日，「花園大学歴史博物館」で京博連主催の博物館連続公開講座に虹の会ボランティアとして受付・誘導業務のお手伝いをしました。

テーマは「大学博物館の使命と展示」と「春季企画展　狩野派の絵画―枡米菴コレクション　京狩野作品を中心に―」で講義と展示品見学でした。

講義の中で同大学は博物館学芸員課程がある事を知りました。日本史学や文化遺産学にも力を入れ学芸員の養成をされているという事でした。

歴史博物館は学内の「無聖館」４階にあり常設展で考古学・歴史学・美術・禅文化にかかわる収蔵品を，特別展示室で京狩野作品が展示されていました。

京狩野の知られざる絵師の紹介と合わせ，初公開の探幽の縮図（鑑定絵の控え）が展示され興味を引きました。

終わって後，被災された東北の方々が一日も早く文化に接する事が出来る様にと心の中で祈っていました。

狩野永朝筆「竹林七賢図」江戸時代（19世紀）枡米菴コレクション

法然さんのいるギャラリー

京都市博物館ふれあいボランティア「虹の会」
井田　茂子

東日本大震災により被害を受けられました多くの皆様に心からお見舞い申し上げます。

平成21年度の『京都市博物館ふれあいボランティア養成講座』を終了し，活動を始めてから早や１年が過ぎました。

以前から美術館は大好きでしたが，ボランティアを始めてより多くの作品と出会い，とても充実した活動をさせて頂いています。定期的な施設もありますが，最新では知恩院さんのギャラリー和順での「法然上人と遠忌」特別展に参加しています。新装成ったギャラリーでの活動は快適です。

法然さんは書物での知識しかなかったのですが，展示の中から様々なお姿が見えてきます。中でも高村光雲作の「法然上人像」は私の大好きな彫刻です。小さなお像ですが目を合わせるとふとお声が聞けそうな気持ちがします。毎回お会いするのを楽しみにしています。

最後になりましたが，多くの仲間の皆様に感謝いたします。有難うございました。

ギャラリー和順（知恩院　和順会館内）

博物館ふれあいボランティア「虹の会」とは？

「虹の会」は，京博連と京都市教育委員会が開催する「京都市博物館ふれあいボランティア養成講座」を修了した市民の皆さんで作るボランティア団体です。

会員は，自らの生涯学習のため，また施設と来場者の架け橋となるため，京博連加盟の博物館・美術館等の施設で積極的にボランティア活動を行っています。活動の内容は，具体的にはイベントの受付や，展覧会での監視業務，展示品の簡単な解説など多岐にわたります（施設からの要請に応じて，様々な活動を行っています）。

活動依頼は，月に１回，京博連事務局を通して行います。定期的な活動のほか，１日のみ，また数日から一週間といった短期的な活動にも参加していますので，活用を希望・検討される京博連加盟館におかれては，お気軽にお問合せください。

問合せ先：京博連事務局　TEL（075）251－0410　FAX（075）213－4650

中国江南の民間文芸

泉屋博古館
館長　小南　一郎

この二三年来，科学研究費補助金を受けて，中国江南地域の民間文芸の調査を行なっている。いっしょに調査をする同僚たちの興味の中心は，民間の語り物文芸の文学的内容にあるようだが，わたし自身の関心は，そうした文芸の基礎にあるもの，とりわけ宗教儀礼としての性格の方にある。日本の民間文芸の多くが芸能化して，少なくとも表面的には，宗教的性格を薄れさせているのとは対照的に，中国の語り物や歌い物文芸には，古くからの信仰的要素をそのままに留めているものが多いのである。

中国の民間文芸も多種多様であるが，われわれの調査の主たる対象は，宣巻（せんかん）と呼ばれる文芸で，その起源は敦煌での語り物にまでさかのぼるとされ，とりわけ明清時期には，宝巻（ほうかん）と呼ばれて，広く社会に受け入れられていた。明代の小説「金瓶梅」にも，宝巻語りがお金持ちの家の奥に通され，その語りによって家の女性たちを泣かせる様子が描かれている。

現在でも，宣巻が始められるに際しては，まず爆竹が鳴らされ（爆竹は魔物をしりぞけるとされる），香が焚かれ，神々の位牌が置かれ，神さまたちが語りの場に招かれる。そのあと四人，あるいは六人の芸人たちが，楽器を鳴らしつつ，物語りを歌う。その物語りに，女性たちの苦難を述べたものが多いのは，宝巻文芸の古くからの伝統である。数時間かかる語りが終わると，神々が帰って行くのを見送る送神（そうしん）の儀式があって，宣巻の行事は終わる。

われわれが調査をしているのは，長江下流域の，呉方言が語られている地域である。おなじ中国語ではあるが，北京語と呉方言とでは，フランス語とイタリア語との差異よりずっと大きな違いがあって，語りの内容はほとんど聴き取れない。芸人たちが机の上に拡げている「唱本」と呼ばれるテキストを覗き込んで，物語りのこのあたりを歌っているのだと知るのである。歌っているすぐ傍で，覗き込んだり，写真を撮ったりするので，はなはだ迷惑であろうと思うが，芸人たちはあまり気にしていないようである。宣巻の途中，自分が歌う部分には当たっていない芸人が，わたしの調査ノートをしげしげと見て，おまえの「筆記」は中国語か日本語かと小声で尋ねたりする。

考えてみれば，われわれの調査自体も，現地の農民たちにとっては迷惑であるに違いない。農村祭祀の祭壇の横に立って，ビデオを撮ったり，いろいろと質問をしたりするのである。現地へ案内してくださった中国の先生に対して，かれらは何者なのだと尋ねているのが耳に入る。かれらは日本人だとの返事があっても，とりわけ驚くでもなく，応対が変わるのでもない。われわれを鷹揚に受け入れてくれるのも，中国の伝統的な民衆文化の一部なのであろうか。

紹興市郊外での宣巻
四人の宣巻芸人の歌を背後にして，家族二人が，外に向かって神を招く。

発　　行　平成23年５月
編集・発行者　京都市内博物館施設連絡協議会事務局（京都市教育委員会 生涯学習部内）
所　在　地　〒604-8064 京都市中京区富小路通六角下る 元生祥小学校内　TEL：(075)251-0410　FAX：(075)213-4650
ホームページ　http://www.city.kyoto.lg.jp/kyoiku/soshiki/29-17-1-0-0_13.html